

## リハビリテーション系専門学生の聴覚障害の理解度の調査

作業療法士学科昼間部

### 【背景】

水野<sup>1)</sup>によると、「聴覚障害や加齢などによる難聴に対して社会の理解不足」や、「聴覚障害の理解の促進が重要」ということが挙げられている。現在、日本では高齢化が進み、今後、難聴者が増加すると予測されている。これにより、障害者の雇用の促進などにより障害者に関わる機会が多くなると予想される。これらから、「聴覚障害に対しての理解の促進が必要」という背景がある。

長尾<sup>2)</sup>によると、「音の高音域が聞き取りづらい、についての理解度が最も高いのはリハ職と学生」、「介護職、ヘルパー、介護福祉士、看護職は教育課程上、聴覚障害などの細かな教育は重要視されていない可能性が考えられる」とあった。

この研究での考察では、難聴について知っていると回答した人は多かったが、聞こえ方の理解は職種ごとに全体的にばらつきがあり、十分に理解されていないのが現状と考察されていた。

### 【対象および方法】

大阪医療福祉専門学校作業療法士学科昼間部学生(以下 OTS)1~3 年 計 88 人、理学療法士学科昼間部学生(以下 PTS)1~3 年 計 113 人、言語聴覚士学科昼間部学生(以下 STS)1~2 年計 55 人に、調査系研究を行った。倫理的配慮として目的、方法、個人情報保護の説明を行い、文書で確認した。

### 【結果】

「聴覚障害について」の、「聴覚障害の種類について知っているか」という問いの回答。OTS, PTS とともに 20~40%が「知っている、少し知っている」と回答し、OTS の方が知っているという回答がやや多いという結果になった。STS の回答では、「知っている」が 98%と圧倒的な差が出た。

聴覚障害の方とのコミュニケーションについては、「相手の口の形を見て会話内容を理解する事がある」の結果では、各学科で大きな差はなかった。

「大声を出されても聞き取りやすくなる」とは限らない」の結果でも OTS, PTS に「知らない」という回答がわずかにみられるが、全体的に「知っている」という回答が多くみられた。

### 【考察】

「聴覚障害について」は、OTS, PTS と STS で大きな差があることがわかった。言語聴覚士<sup>3)</sup>は「聴覚障害、ことばの発達の遅れ等、コミュニケーションに対応」、作業療法<sup>4)</sup>は「『その人らしい』生活の獲得を目標とする」、理学療法<sup>5)</sup>は「運動機能の維持・改善を目的に物理的手段を用いて行われる」ことから OTS, PTS は解剖生理学で聴覚障害について短い学習しかしておらず、STS は聴覚の専門職であり、聴覚障害における解剖生理学の知識を細かく学習しているため、STS の理解度が最も高くなったと考えた。「聴覚障害の方とのコミュニケーション」では OTS, PTS と STS で変化が少ないことがわかった。これらはアンケートを 12 月~1 月に実施したため、全対象者に実習経験があることを考えた。どの学科も実習経験などがあり理解度が高いという結果が出たと考えた。

### 【まとめ】

OTS も聴覚障害、特に解剖生理学の理解度を高め、難聴の種類やメカニズムを含めた知識を増やすべきと考えた。今後、高齢化が進むにつれ、難聴者の増加も予想されることから、OTS として聴覚障害のある方が生活をしやすいように補助具などの使用を促していきたいと考えた。

### 【文献】

- 1) 水野映子：聴覚障害・難聴に関する学習の現状と効果-生活者アンケート調査および社会人向け啓発講座の実施結果から。第一生命経済研究所。2011, 16.
- 2) 長尾哲男, 鎌田篤子・他：老人性難聴の聞こえ方の理解と対応方法の調査-高齢者施設における職種別調査から-。長崎大学医学部保健学科紀要。2003, 121-126.
- 3) 一般社団法人 日本言語聴覚士協会(internet) : <https://www.jas1ht.or.jp/>
- 4) 一般社団法人 日本作業療法士協会(internet) : <http://www.jaot.or.jp/>
- 5) 公益社団法人 日本理学療法士協会(internet) : <http://www.japanpt.or.jp/>